

～中世 其の1～

徳用クヤダ遺跡で最も注目すべき遺構は、主に室町時代（1400年代）のもので、大きく深い溝^{みぞ}で囲まれた地域有力者層^{やしき}の屋敷地^ち、溝で細かく区切られた庶民^{しょみん}の宅地群^{たくちぐん}、整備された道路、物資の運搬^{うんぱん}に利用されたであろう河川跡がみつかっています。

遺物も大量に出土しており、庶民の日常道具だけでなく、有力者層^{しこうひん}の嗜好品^{はかいし}や墓石などもみつかっています。

このような大規模で整備された集落がまとまって確認できた遺跡は県内でも少なく、中世集落を研究する上で重要な資料となっています。



溝で区切られた庶民の宅地群 写真①（西から撮影）